

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	キリスト教と文化研究センター
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. センター長、副長がコーディネーターとなり、少なくとも3つの研究プロジェクトを設定する。	→各プロジェクトの研究会やフォーラムを各学期少なくとも2回行う。	B
2. 活動の迅速な報告のため、キリスト教と文化研究センターのホームページを充実する。	→キリスト教と文化研究センターのホームページを月1回更新する。	C
3. フォーラムや講演、また研究プロジェクトでの発表は、本として発行する。	→研究雑誌を年1冊発行し、書籍を年1冊出版し、成果を広く問うていく。	B
4. 公募研究費を申請する。	→公募研究費を年1回申請する。	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

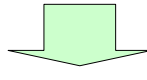
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目4.0.1	(現状説明) 旧年度から継続してきた「キリスト教と平和構築」プロジェクトは、『キリスト教平和学事典』の刊行、関連講演会の実施にて完了した。2009年下期から新期プロジェクトを検討し、2010年度から、将来の日本の多文化共生社会に寄与することを目して、「多文化・多宗教都市・神戸」に関する研究プロジェクトを発足させると共に、前年度からの「聖典と今日の課題」を継続している。前者については、2011年度以降継続し、後者は2010年度で完了し、研究成果を公表する予定である。また、キリスト主義教育に関するプロジェクトを立案した。このような編成は、センター設置の趣旨に即したものである。2010年4月時点で、3つの研究プロジェクトが実施されるが、それぞれの実施責任者は、センター長及び副長2名であり、また各研究プロジェクトに複数の主任研究員、研究員が配されて、現代の問題に即応した機動的に研究を進める体制を整えている。研究活動については、事典のほか、講演集『平和創造への道』（新教出版社、2010年1月）、研究紀要『キリスト教と文化研究』（2010年3月）を刊行した。また、フォーラム2回、主催講演会2回（同一内容、東京と西宮）、ミニフォーラム1回を開催している。
☆ 小項目4.0.2	(現状説明) 2009年度下期にこれまでの研究体制を見直し、従来のセンター所属メンバーがプロジェクト全体を担う体制をあらため、センター長・副長をコンビーナとしたプロジェクト・チーム体制（原則任期内2年）で研究の実施、また予算執行に責任を負う仕組みとした。2010年度は任期途中であるので、経過期間となる。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	



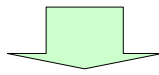
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目4.0.1	科研費や外部諸団体の資金導入の具体的な計画する。
★小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目4.0.1	科研費や外部諸団体の資金導入についてはセンター専任教員が2名と限られているため、毎年の申請・取得には困難もあるが、RCC独自予算で研究計画を準備・実施し、その実績にもとづいて、これを種苗として大学共同研究・外部研究助成の応募へとつなげる。
★小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

○「キリスト教と平和構築」、「多文化・多宗教都市・神戸」、「聖典と今日の課題」など多彩な研究プロジェクトを利用して研究が進められており、その成果が、書物、フォーラム、講演会など多様な形態で社会に向けて発信されています。これらは重要な活動であり、高く評価されます。今後は、さまざまな立場の人材をも利用した研究活動も望まれます。  
○キリスト教と文化研究センターの活動を理念・目的に応じるように、組織をセンター長・副長をコンビーナとしたプロジェクト・チーム体制に移行させたことは評価します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし	
-----	--

Ⅴ. 本項目の評価指標

＜全学的な指標＞

--	--

＜個別的な指標＞

--	--